

## 《音楽会 I 歌い方》 出演のみなさま、ご確認ください。

2019/10/20 音楽会 I 実行委員会

共通して

楽譜を再度見直して、「音」「リズム」「音楽記号」を正確にとりましょう。

11月2日通し練習は「完全暗譜」で、指揮者をみて歌いましょう。

\*「手をつなごう」「やってみよう」について

2曲を通して、合唱隊はダンス隊のバックコーラスではなく、あくまで「歌が主体」のステージです。曲の構成や詞の流れ、曲想を理解して、ていねいに言葉を運んで歌いましょう。曲の冒頭から、喋り声の延長のような喉声や胸声にならないよう、身体を準備し、喉の奥を開け、明るく響きを前に出して歌いましょう。

<p>「てをつなごう」</p>	<p>楽譜を再度確認する。                  パート分け方 32~38小節⇒高：S・T／低：A・B                  57~72小節⇒高：S／低：A・T・B                  74~81小節⇒高：S／低：A／メロディ：T・B                  87~101小節⇒高：S／低：A・B／メロディ：T                  振り 99小節⇒全員手をつないで左右に揺れる(両隣の人に対して、右手のひらを上向き、左手のひらを下向きに差し伸べる)。最後のpfで、つないだ手を挙げ掌をヒラヒラ。</p>
<p>「やってみよう」</p>	<p>楽譜を再度確認する。                  曲冒頭 pf ジャーンと鳴る                  ⇒指揮者合図で「イエー」と4拍(歌集楽譜は2拍となっているが)                  歌い分け⇒《A》：S・T／《B》：A・B／《全》：全員。原曲と異なるが歌集楽譜通りに。                  セリフ部分「X」表示⇒音程示すものではない。明るく勢いのある声で。                  H B「いっしょにはしろう」の音⇒「ミ~ミミミミレド」で歌う。                  最後より7小節⇒「(いらない、いらないいらない)」と歌う。                  最後より3小節目からの「やってみよう」                  ⇒男性→A→S→少し間をおいて、全員。                  *楽譜の音の訂正⇒6P、3段目最終小節2拍目「ファラ」⇒「ソラ」で歌う                  *《A》・《B》のパート分けをしているが、全曲通して歌う練習をしておきましょう。                  (かけあいが遅れる傾向があるので。曲の全容を把握して歌いましょう。)</p>
<p>「四季の花のうた」</p>	<p>「オバケなんてないさ」でお馴染みの作詞作曲家の峯陽さん、うたごえでも「青い空は」でよく知られている作曲家の大西進さんの共作。この曲にも、♪母さんみたいに♪父さんみたいに♪子ども達が幸せに♪という歌詞があり、子どもをおもて親の優しさや愛おしさが歌われています。                  大きくは二つの構成で作られています。前半は語りの部分で、後半は短調になり低音が続きますが、十分に息を流し歌って欲しいところです。男女や高低部の掛け合いを楽しんで下さい。                  夏につゆ草、秋の鬼あざみ、冬のお茶花、春のさんざしの四季の花が織り交ぜられ、素敵な曲になっています。清々しく、爽やかに歌いましょう。                  E 38小節からのオブリガードパートの歌い手は、練習で決めます。</p>

<p>「地球星歌」</p>	<p>地球という星の歌、タイトルからして、とてもスケールの大きい歌です。～笑顔のために～というサブタイトルが付いています。</p> <p>ミマスさんは、音楽ユニット アクアマリンの一人で、「自然や星、旅を題材にして、生命の大切さや生きる事の素晴らしさをテーマとした曲」を歌っています。「COSMOS」がよく歌われています。</p> <p><b>子ども達や障がいのある仲間たちは、曲の最初から主旋律を歌います。</b></p> <p>全体を通して、言葉のニュアンスを感じて、伸びやかに前向きに歌いましょう。笑顔で歌いましょう。</p>
<p>「海はふるさと」</p>	<p>シンプルなメロディの繰り返しですが、母、故郷、祖国への愛情をダイナミックに表現しましょう。</p> <p>テンポは 70～72 位。歌い出しの 8 小節は、海岸に向かってくる幾つもの波を表現しています。スラーで優雅に美しく、上昇音はエネルギーを上げ、下降音は優しく丁寧に。歌は、4 小節をブレス無しで、リズムを厳格に。次の 4 声は、1 回目は控え目に、2 回目はより深い愛情を込めて。最後の F 音は、綺麗に鳴る様に。</p> <p><b>1 番から 2 番は、曲調を変える為に、少しルバートします。テンポが動くので指揮者をよく見る。</b> 1 拍目を早く出さない様に。「ふくかぜさそう」の「う」は「u」で発音します。「海よ～」は、更に少し遅くし、しっとりと歌います。最後の「ふるさと」の「ふ(Fu)」の「u」の母音を美しく。気持ちを込めて crescendo して遠くまで届ける。</p>
<p>「原発下請労働者」</p>	<p>全体として、労働歌の様に誇らかに歌うところはありません。虐げられている者の叫びとして、粘って厳しい口調で表現したい。告白する立場で、付点音符は強調して、しかし、ぐっと抑えた歌い方をします。「病気になるれば～」は、「うやむやに」までを抑えて、そこから「自由に」までを極端に crescendo で怒りを表現。「選べない」で、急激に p。4 番後半のみ、crescendo して、歌い切る。</p>
<p>「いとし子よ」</p>	<p>初めの「お前の寝顔～死にはしないかと」は、ソロ演奏。「ぼうや～」は、軟らかく入り crescendo。「お前が大き～」語り口調、後半のフレーズに高まりを。「でしようか」はゆったりと。「お前に約束～」は、全体的に強めにアクセントを使ってはっきりと。「子どもの為に」crescendo。「ぼうや、ぼうや～」そのまま f で、最後の「ぼうや～」は、長い crescendo で、気持ちの高まりを会場遠くへ届ける。</p>
<p>「わが若狭よ」</p>	<p>「青い海～岬よ」は、無伴奏で。呼吸を深く、全体をレガートで柔らかく、かつ、大きなフレーズの高まりを創りたい。少しテンポを落とす。「父、母を～」男声は力みのない柔らかく明るい声で、女声も、力みなく包み込む様に。「その、岬も～」男声の抑えた発声で淡々と。「灰色の～」アクセントを加えて crescendo。「災いの～」現状の怒りを f で。更に、rit. フェルマータで、怒りの強さを表現する。</p> <p>2 番「幾年月～」テンポを 95～100 に上げます。鋭くアクセントを利かせて。「若狭人よ～」mf でアクセントを使って crescendo。「我が愛する～」次のフレーズに向かって広げていく。「る～」は、スムーズに、最後は ff を歌い上げる。</p>